

輸血・細胞治療部

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	10 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	11 人	

2 教員の異動状況

竹下 明裕（病院教授）（H24.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	6.37	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6 編	(6 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Fujihara H, Yamada C, Furumaki H, Nagai S, Shibata H, Ishizuka K, Watanabe H, Kaneko M, Adachi M, Takeshita A: Evaluation of the in-hospital haemovigilance by introduction of the information technology

based system, Transfusion, 55(12), 2898-904, 2015. [3.225]

2. Furumaki H, Fujihara H, Yamada C, Watanabe H, Shibata H, Kaneko M, Nagai S, Ishizuka K, Tsuzuki M, Adachi M, Takeshita A: Involvement of transfusion unit staff in the informed consent process, Transfus Apher Sci, 54(1), 150-7, 2016. [0.768]

インパクトファクターの小計 [3.993]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 室井一男, 浅井隆善, 竹下明裕, 岩尾憲明, 梶原道子, 松崎浩史 : 200ml 献血と採血基準, 日本輸血細胞治療学会誌, 61(1), 19-23, 2015. [0.000]
2. Ohsaka A, Kato H, Kino S, Kawabata H, Kitazawa J, Sugimoto T, Takeshita A, Baba K, Hamaguchi M, Fuji Y, Horiuchi K, Yonemura Y, Hamaguchi I, Handa M. Recommendations for the electronic pre-transfusion check at the bedside. Blood Transfus. doi 10.2450/2016.0184-15, 2016 [2.372]

インパクトファクターの小計 [2.372]

（３）総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 山田千亜希, 竹下明裕 : Q&A 読者質問箱 アルブミン製剤の一元管理の意義(Q&A), 検査と技術 43(12), 1232-1234, 2015. [0.000]
2. 竹下明裕 : 造血器腫瘍をめぐる最近の話題 急性前骨髄球性白血病の cytotoxic chemo-free therapy, 腫瘍内科 16(6), 519-524, 2015. [0.000]
3. 竹下明裕 : 急性骨髄性白血病診療の最前線 Anthracycline の至適投与量に関する大規模試験. 血液内科 72(2), 189-192, 2016. [0.000]
4. 竹下明裕, 安達美和 : 骨髄系 抗癌剤を用いない APL 治療 Annual Review 血液 2015 巻, 104-111, 2015. [0.000]
5. 竹下明裕 : ゲムツズマブオゾガミシンが有効な疾患と最適な投与法 血液内科 70(3), 391-396, 2015. [0.000]
6. 竹下明裕, 安達美和 : 白血球増多を伴う急性前骨髄球性白血病における CD56 発現の予後因子としての意義 血液内科 70(1), 104-110, 2015. [0.000]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

（４）著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Takeshita A, Adachi M: Drug resistance to Calicheamicin conjugated monoclonal antibody therapy. Verma RS, Resistance to immunotoxins in cancer therapy, Springer, USA, pp165-184, 2015.

2. 竹下明裕：急性前骨髄球性白血病 金倉譲 最新ガイドライン準拠 血液疾患 診断・治療指針, 中山書店, pp283-289, 2015.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度
（１）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	1 件 （60 万円）
（２）厚生労働科学研究費	0 件 （0 万円）
（３）日本医療研究開発機構（AMED）による研究助成	0 件 （0 万円）
（４）科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件 （0 万円）
（５）他政府機関による研究助成	0 件 （0 万円）
（６）財団助成金	0 件 （0 万円）
（７）受託研究または共同研究	0 件 （0 万円）
（８）奨学寄附金	6 件 （350 万円）

（１）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

不規則抗体が関与する遅発性溶血性輸血副作用の解明 ―前方向多施設共同研究の推進― 若手

（B）60万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	2 件	1 件

(2) シンポジウム発表数	0 件	2 件
(3) 学会座長回数	0 件	2 件
(4) 学会開催回数	1 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	7 件
(6) 一般演題発表数	7 件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

1. Thid meeting of the Asian Alloimmunity to Antigen Diversity in Asian Populations. Hotel Melia Bali Nusa Dua. Bali, Indonesia, November 14, 2015. 40 名

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Takeshita A: Tamibarotene (Am80) for Acute Promyelocytic Leukemia. 13th Annual meeting of Chinese Society of Hematology, Harbin, China, June 19, 2015.
2. Takeshita A: The previous and future study of ADP. 3rd meeting of the Asian Alloimmunity to Antigen Diversity in Asian Populations. Hotel Melia Bali Nusa Dua. Bali, Indonesia, November 14, 2015.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

4) 国際学会・会議等での座長

5) 一般発表

口頭発表

1. Yamada C, Furumaki H, Fujiyama H, Watanabe H, Tsuzuki M, Shinba T, Kaneko M, Shibata H, Ishizuka K, Hosaka Y, Takeshita A : Introduction of point-of-care testing and intervention in the transfusion unit decreases perioperative bleeding, shortens operative time and facilitates appropriate dosage of blood transfusions. 26th Regional Congress of the ISBT. Bali, Indonesia. November 16, 2015. Vox Sanguinis, 109(S2), 20-21, 2015.

ポスター発表

1. Furumaki H, Yamada C, Fujiyama H, Watanabe H, Shibata H, Nagai S, Ishizuka K, Kaneko M, Tuzuki M, Adachi M, Takeshita A: High level of understanding for blood transfusions in patients can be achieved by expert staff from the transfusion unit. 20th Congress of European Hematology Association. Vienna, Austria. June 12, 2015. Haematologica, 100(S1), 139-140, 2015.
2. Watanabe H, Takeshita A, Yamada C, Yurugi K, Tomoda Y, Uchikawa M, Kino S, Ohto H: Importance of an enzyme treatment method in antibody screening to erythrocyte antigen; Results from Japanese Study Group of Antigen Diversity in Asian Populations (allo-ADP) Study Group. London, UK. June 29, 2015. Vox Sanguinis, 109 (S1), 264, 2015.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 竹下明裕: 赤血球不規則抗体に関する日韓共同研究の進捗状況と発展性. 第 63 回日本輸血・細

胞治療学会総会,新宿（京王プラザホテル）,2015.5.29,日本輸血細胞治療学会誌,61(2), 110, 2015.

3) シンポジウム発表

1. 山田千亜希, 安達美和, 竹下明裕 : 不規則抗体陽性患者に対する赤血球製剤輸血に関する共同研究の提案と進捗状況. 第 63 回日本輸血・細胞治療学会総会,新宿（京王プラザホテル）,2015.5.29, 日本輸血細胞治療学会誌,61(2), 110, 2015.
2. 渡邊弘子:Patient blood managemen に対するチーム医療としての輸血部門の取り組みとその効果—臨床検査技師の役割と活動—, 第 63 回日本輸血・細胞治療学会総会, 新宿（京王プラザホテル）, 2015. 5. 29, 日本輸血細胞治療学会誌,61(2),210,2015.

4) 座長をした学会名

1. 竹下明裕 第 77 回日本血液学会総会（金沢）
2. 竹下明裕 第 63 回日本輸血細胞治療学会総会（東京）

（3）役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 竹下明裕 日本血液学会（代議員、専門医試験委員）、日本造血細胞移植学会（代議員）、日本臨床検査医学会（評議員）、日本内科学会（評議員）、日本輸血細胞治療学会（理事、評議員、効果安全性委員会委員、国際共同研究委員、学会認定輸血看護師制度審議委員、臨床研究支援委員、赤血球型ガイドライン委員）
2. 藤原晴美 日本輸血細胞治療学会（評議員）
3. 山田千亜希 日本輸血細胞治療学会（評議員）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2 件	3 件

（1）国内の英文雑誌等の編集

（2）外国の学術雑誌の編集

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

1. Int J Hematol 3 回（日本）
2. 日本輸血細胞治療学会誌 3 回（日本）
3. Eeulopean J Haematol 1 回（伊）

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
（1）国際共同研究	1 件
（2）国内共同研究	4 件
（3）学内共同研究	0 件

（1）国際共同研究

1. Alloimmunity to Antigen Diversity in Asian Populations（アジアにおけるアロ免疫に関する共同研究）、

台湾 韓国 インド マレーシア シンガポール タイ、2008 年～継続、症例登録を事務局として行っている。(主任：竹下明裕)

(2) 国内共同研究

1. 急性前骨髄球性白血病に対する亜ヒ酸、GO を用いた寛解後治療 第 II 相臨床試験 JALSG APL212 (日本成人白血病研究グループ) (主任：竹下明裕)
2. 65 歳以上の急性前骨髄球性白血病に対する ATO による地固め療法 第 II 相臨床試験 JALSG APL212G (日本成人白血病研究グループ) (主任：竹下明裕)
3. 成人急性前骨髄球性白血病を対象とした第 III 相臨床試験、APL204、の長期予後調査 (日本成人白血病研究グループ) (主任：竹下明裕)
4. 不規則抗体陽性患者に対する赤血球製剤輸血に関するアンケート調査 (主任：竹下明裕)

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 赤血球不規則抗体に関するアジア共同研究

赤血球不規則抗体は輸血や母子間免疫が関係する。これまで、輸血に関しては政治や経済力、測定技術の差異もあり、国際間の共同研究は行われてこなかった。2007 年度より、アジア地区の共同研究として本研究をスタートした。これまでに 100 万例超の患者登録があり、継続研究中である。これまでの経過は第 63 回日本輸血細胞治療学会総会にて報告された。インドネシア、台湾を研究グループに招き、アジアの参加症例数を増やしている。(竹下明裕、渡邊弘子、山田千亜希)

2. 急性前骨髄球性白血病の国内共同前方向研究

急性前骨髄急性白血病(APL)は分子標的療法が最も進んだ白血病である。All-trans retinoic acid (ATRA)、arsenic trioxide (ATO)、gemtuzumab ozogamicin (GO)、Am80 の 4 つの分子標的剤を使用し、従来の化学療法の有害事象と予後の改善を狙った。16 才以上 65 才未満の APL212 と 65 才以上の分子標的治療のみからなる APL212G を研究主任者として行い、登録が進行中である。現在、両研究とも目標症例数の約 90%に到達した。さらに、成人急性前骨髄球性白血病を対象とした第 III 相臨床試験、APL204、の長期予後調査を開始した。合成レチノイド Am80 の維持療法における有効性を長期予後として調査中である。(竹下明裕、古牧宏啓)

3. 希釈性凝固障害に対するクリオプレシピテートとフィブリノーゲン製剤の有用性

大量出血に対する輸血後には希釈性凝固障害が引き起こされる。この際、凝固因子、特にフィブリノーゲン製剤の有効性がある。本院では学内 IRB を取得後、「クリオプレシピテート」と「フィブリノーゲン製剤」を希釈性凝固障害の症例に対して使用し、有用な結果を得ている。症例を増やし適正使用について検討中である。(竹下明裕)

4. 赤血球不規則抗体陽性患者に対する輸血に関する共同研究

不規則抗体陽性患者への輸血に関して正確な情報を得ることにより、副作用の発現頻度、陰性血の選択に関して理解が進むと思われる。国内の施設で、赤血球不規則抗体陽性で、該当する抗原陽性輸血をした症例、赤血球不規則抗体陽性で、交差適合試験を省略して輸血をした症例、不規則抗体スクリーニングを省略して輸血し、残血清で不規則抗体陽性となった症例、赤血球輸血ガイドライン上に記載されている臨床的意義には関係なく全ての該当症例を対象とした。抗原陽性輸血の調査システムを構築することを目指す。可及的に多くのデータを蓄積し、前方向研究につなげることで、赤血球不規則抗体陽性例における輸血副作用の頻度が真の値に近づくと予想される。(竹下明裕、山田千亜希、渡邊弘子)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 上記 12 の 1～4 に記載した研究はいずれも国際的な研究であり、継続して研究されている。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 善意の献血 若者の参加増やせ. 公明新聞、2016.2.24.